

道徳授業研究協議会

H29. 9. 27

題材 2年「ゆきひょうのライナ」

1. 教材のあらすじ

カシミールという山に住んでいる雪ヒョウのライナが小川を泳ぐ魚に見とれていたとき、サギが飛んできて、見事に魚をつかまえ、つるりと飲み込んだ。それを見たライナは、「食べられた魚がかわいそうだな。だけど、鳥は魚を食べないと生きていけないな。」ともやもやした気持ちをもつことがあった。

時はすぎ、冬眠から目を覚ましたライナはおなかがぺこぺこ。その時、ライナの前に一羽の子ウサギが出てきた。「やっとお肉を食べられる。」しかし、ライナの頭にふと鳥に食べられた魚のことが浮かんできた。「今このウサギを食べたらウサギは死んじゃう……。でも食べないと自分が死んじゃう……。でも……。」

2. 授業の実際

食する生命への感謝を考えさせるために授業を計画

- ・ 自分事として教材と向かい合う

「自分がライナだったら、子ウサギを食べますか？
逃がしますか？」

というテーマ発問で授業を進めた。

- ・ 教師によるゆさぶり

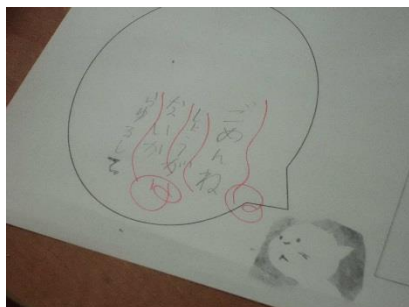
「食べてしまった子ウサギは死んでしまうんだよね。」

「食べなかったら自分が死んでしまうんだよね。」

- ・ 悩む児童たち
- ・ 結末を知る児童

「ライナはうんと悩みましたが、自分が死んでしまうほどおなかが空いているのには耐えられませんでした。ついに目の前の子ウサギに飛びかかり子ウサギを食べてしまいました。」

- ・ 子ウサギへのメッセージを考える。
- ・ 考えたメッセージを発表する。(児童と先生による役割演技)



←子ウサギへの
メッセージ



読み語りの場面



考えを発表する場面



ごめんね。しょうがないから許して。

2. 研究協議会より

(1) 授業者の反省

- ・児童たちは一生懸命がんばっていた。ただ、緊張していたためか、先生が見ていたためか、自分の思いをなかなか発言へとつなげられなかったという点が挙げられる。言葉として全体へ発信出来ないと自分の考えと他人の意見を比較したり、新たな考えとして取り入れたりすることが出来ないため、研究授業という状況でも児童の思いを引き出す技術を磨いていきたい。

(2) 題材について

- ・食する生命への感謝ということを自分ごととしてつかませるのに、命をいただくことに関して料理されているものしか知らない児童にとっては、なかなか想像しづらかったかもしれない。

(3) 命をいただくことは悪いことか？

- ・どうしても「食べることは悪いこと」という意見が出やすくなってしまう。繰り返し発問は効果的であったが、食べることは悪ではないという部分を授業の前半で押さえていると、もっと意見が出やすかったかもしれない。

(4) 役割演技について

- ・多くの教員が見ている前で勇気をもって演技してくれた子はすばらしい。今回こうした演技経験がなかったので、尻込みをした児童が多かった。事前にもっと違った形で経験させておくとよかった。

(5) 授業技術

- ・ワークシートを書いている時の児童への声かけ、教師が話すときの立ち位置、意見を言わせたり、考えさせたりするときの指名のタイミング、話し合うときと書くときの切り替えと筆箱の出し入れ、どの子にも分かりやすく授業するためのユニバーサルデザインの取り入れ方など、多くの技術を研究協議会に参加した教員同士で確認しあった。



研究協議会では、付箋紙を貼り、カテゴリーごとに分類して分析しあった。

